

## 令和5年度 周南市地域創発事業委員会 会議録

1. 日 時 令和6年3月19日(火) 18時00分～20時40分
2. 場 所 [第1部][第3部] 周南市役所2階共用会議室 E  
[第2部] シビック交流センター2階交流室 1
3. 出席者 徳山小学校区コミュニティ推進協議会（以下、徳小）  
岐山地区コミュニティ推進協議会（以下、岐山）  
大河内地区コミュニティ推進協議会（以下、大河内）  
住みよい菊川をつくる会（以下、菊川）  
（計17名）  
  
周南市地域創発事業委員会  
河田 正樹 委員長  
船崎 美智子 委員  
松浦 和子 委員  
竹尾 真実 委員
4. 事務局 地域振興部 橋本  
地域づくり推進課 神杉、三牧
5. 傍聴者 19名
6. 会議内容  
  
【第1部】（非公開） 18:00～18:40 （共用会議室 E）  
  1. 事業審査会の実施方法について
  2. 対象事業の概要説明  
【第2部】（公開） 18:50～20:10 （交流室 1）  
  
事業審査会  
  
【第3部】（非公開） 20:20～20:40 （共用会議室 E）  
  
意見・助言等の取りまとめ

【第2部】発言者・発言内容

発言者	発言内容
事務局	<p>只今より令和5年度周南市地域創発事業委員会を開催する。                      それでは、早速「事業審査会」に移る。                      注意事項として、各団体の発表時間が残り3分になったら、通知する。また、終了時間になったら、ベルを鳴すので、発表の途中であっても、まともに入っていたく。                      では、はじめに「徳山小学校区コミュニティ推進協議会」より、発表をお願いします。</p>
徳小	(プレゼン資料により発表)
事務局	<p>質疑応答に移る。                      委員から、質問等をお願いします。</p>
委員A	<p>とくやま弁ラジオ体操は、とくやま弁を歴史に残していくという点で、今後小中学校や市内全域に広めていくことも意義があると思う。</p>
徳小	<p>とくやま弁を残していくために、市民センターで開催される朝市で方言のクイズを行ったり、市民センターに来られる方にとくやま弁アンケートも実施したりしている。</p>
委員B	<p>事業を進めていく上で、困ったこと等を具体的に教えていただきたい。</p>
徳小	<p>カレンダーの作成依頼の際に、安く作り安く販売するため、アプリを利用してネット申込により印刷業者へ依頼を行ったが、主にメールでのやりとりであったため、修正依頼等に時間がかかってしまい苦労した。</p>
委員C	<p>とくやま弁ラジオ体操のCDは、何枚作ったのか。</p>
徳小	<p>CDは販売ではなく、必要に応じてダビングし、貸出を行っている。</p>
委員C	<p>県では、社会貢献活動などを積極的に行っている企業を「モデル事業所」として指定し、表彰を行う制度等もあるため、今後周南市内の企業との連携をとられても良いのではないかと思う。</p>
委員D	<p>カレンダーの販売価格を200円に決めた根拠は何か。</p>
徳小	<p>当初、1部あたり約170円で作成できる予定であったが、急ぎで印刷を依頼することとなり、作成費用が1部あたり約210円かかった。</p>
事務局	<p>以上で発表を終了とさせていただきます                      続いて、「岐山地区コミュニティ推進協議会」より、発表をお願いします。</p>
岐山	(プレゼン資料により発表)
事務局	<p>質疑応答に移る。                      委員から、質問等をお願いします。</p>

委員 A	実行委員を毎回募集することにより、新しい方に広く参加していただける点は良いと思う。一方で、前から行っている事業との継続性はどのように考えているのか。
岐山	岐山地区では、策定委員会と実行委員会を毎月それぞれ開催しており、策定委員の中で、希望する人には実行委員も兼務していただき、実行委員会の方向性の軌道修正や策定委員会への情報共有を図るようにしている。
委員 B	発表の中で、地域に昔から住んでいる方と新たに転入されて来られた方の交流の機会を作りだすというお話しがあったが、具体的にはどういったことがあるか。
岐山	地域の方々に元々ある地域行事があまり知られていなかったため、パンフレットを作成し、今ある行事の周知を図った。また、以前からコミュニティの実施する「史跡探訪ハイキング」でも今回作成したマップを活用することで、地域の方の行事への関心や参加を促していきたいと考えている。
委員 C	マップは何部印刷する予定か。
岐山	予算の関係上、2,000部印刷する予定であり、マップ販売を含め地域住民への渡し方は検討中。
委員 C	令和6年度にデジタル技術を活用するための研修・勉強会の開催を計画しているが、具体的にどのようなことをお考えか。
岐山	史跡には、コミュニティ推進協議会が作成した看板が設置しており、そこに史跡紹介のQRコードを掲載していたが、6月以降使用できなくなるとお聞きした。そこで、ふるさと振興財団主催のHP作成研修に参加し、得たノウハウをもとに今後史跡紹介のHPを作成し、情報を充実させていく予定。
委員 C	県では、地域のNPOやコミュニティに向けてITの勉強会や専門家を派遣するような取り組みもあるので、今後ご活用いただけたらと思う。
事務局	以上で発表を終了とさせていただきます 続いて、「大河内地区コミュニティ推進協議会」より、発表をお願いします。
大河内	(プレゼン資料により発表)
事務局	質疑応答に移る。 委員から、質問等をお願いします。
委員 D	1年間の間に色々なプロジェクトをチームに分かれて着実に進められ、色々なところに視察に行くなど精力的に活動されていることが伝わってきた。 発表の中で紹介のあったメンマは、今後広く販売する予定はあるのか。
大河内	ぜひ販売をしたいと思っている。味付けなどまだ作成途中ではあるが、最終的には、パッケージにして物を売るところまで考えているため、地域の小売店やスーパーで販売できればと考えている。また、地元の小学校の先生にも参加していただいているので、給食センターに持ち込み、食育の観点で子ども達に食べてもらうなどしても良いと考えている。
委員 D	発表の中で、小学6年生との意見交換会の紹介があったが、前から学校との関わりがあったのか。

大河内	周南市の小学6年生が「町の幸福論」という国語の授業の一環で、地元地域の良いところや悪いところ、こういう町になったら良いよねといったことを議論する授業があり、その内容と私達の考えている内容のベクトルが一緒であることを先生と話している中で気づき、それならば大人と子どもで意見を交わしたらもっと良いアイデアが出るのではないかと思い、昨年度から始めている。
委員 C	メンマの販売や給食センターへ持ち込み子ども達に食べてもらうことは、非常に成果になると思う。デザインについても、子ども達に手伝ってもらったり、プロにきっちり作ってもらったりと色々な方向性があると思うので、良い商品が出来た時に検討していただけたらと思う。 また、竹はチップや牡蠣棚にするなど色々な活用方法があると思うが、食べてしまおうという発想が良いと思った。
委員 A	メンマ作成は、竹害対策の一環で行われているということだが、成果は。
大河内	昨年は、自分達のチームの中に山の地主さんがいたので、その山にある竹林で収穫作業を行った。当日は、大人10人で約50～60kgの竹を収穫し、灰汁が出てしまうため、収穫後すぐに市民センターで茹で、作業時間としては半日くらいかかった。大河内地区には、竹が多く、できることにも限りがあるが、竹をたくさん採る体制が整うようであれば、今後地域の中で竹害に困られている方に声をかけてもみて良いのではないかと考えている。
委員 B	発表の中で、「お出かけサポート」が現実的に難しいといったお話があったが、今後どのように進めていく予定か。
大河内	理想を言えば、病院に行きたいという声があった際に、車で連れて行ってあげるといった形が取れば良いが、白タクなどの法律的な問題、タクシー会社やバス会社などの兼ね合いもあるため、方向性を少しだけ変えてサポートしたいと考えている。具体的には、夏祭りなどのコミュニティイベントへ一緒に行く、乗り合いのような形にしてはどうかという意見が出ている。
委員 B	お出かけができれば交流の場が待っており、夢プランの趣旨に合っていて良い取組みであると思う。
大河内	地区社協の敬老会のアンケートで、遠く車が運転できないため、行くことができないといったアンケート結果を見たことがあるので、お出かけサポートの需要は高いと思っている。
事務局	以上で発表を終了とさせていただきます 続いて、「住みよい菊川をつくる会」より、発表をお願いします。
菊川	(プレゼン資料により発表)
事務局	質疑応答に移る。 委員から、質問等をお願いします。
委員 B	補助期間終了後の自主財源の確保について、どのようにお考えか。
菊川	お茶の販売やフリーマーケットで利益を上げることや無料で行っている視察対応を有料化し、自主財源を確保出来たら良いと考えている。
委員 A	進捗状況チェックシートの困っていることを記入する欄に、「方針のズレに対する不満」や「脱退者が出ている」といったネガティブなことが書かれているが、どのように捉えているか。

菊川	確かに疲弊しており、会議の中でもネガティブな発言が見られるときもある。そこで、今こそ外部講師に来てもらうなど外部の視点を取り入れることも必要だと考えている。また、今は上手くいかない時期だと捉えて、前向きに展開していきたいと考えている。
委員C	県外のプロボノで、県外の人が地域を応援するといった取組みがあり、交流人口や関係人口を増やすこともできると思うので、そういったところとも連携が取れたら良いと思う。
委員D	ハタチの集いで人が集まらないなど失敗したことも学びとして今後も色々な活動を行っていただきたい。
菊川	ハタチの集いは、全世帯にチラシでお手伝いをお願いしたが、参加申込は2人だけだった。何かを人をお願いするときには、あなたにお願いしたいといった形で肩たたきをしないと人は集まらないということはこのことから学んだ。
事務局	<p>以上で発表を終了とさせていただきます。</p> <p>以上で、令和5年度周南市地域創発事業委員会を終了とする。</p> <p>なお、本日の意見・助言等については、後日通知する。</p>